

武蔵野大学学術機関リポジトリ Musashino University Academic Institutional Repository

看護におけるwell-beingの概念分析

著者	渡部 幸子, 荻野 雅
著者(英)	Watanabe Sachiko, Ogino Masa
雑誌名	武蔵野大学看護学研究所紀要
号	14
ページ	11-18
発行年	2020-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001326/

看護における well-being の概念分析

Conceptual analysis of well-being in nursing

渡部 幸子¹ 荻野 雅²
Sachiko Watanabe Masa Ogino

要 旨

目的：看護における「well-being」の概念を分析しその特性を明らかにすることである

方法：データベースはCINHAL, 医中誌 web で行い, 2011～2019年の年代で収集した。「well-being」「nurse」のキーワードが, タイトルとアブストラクトに記載されている看護文献を抽出した。その結果, 合計48件を対象としてRodgersら(2000)の概念分析方法に基づき, 検討を行った。

結果：先行要件は, 6つのカテゴリが抽出され, 個人の要件と環境としての外部の要件であった。属性は, 7つのカテゴリで, 【快の感情がある】【自己受容している】【自己実現している】【自己超越をしている】【健康である】【満足感がある】【包含された状態】であった。帰結は5つのカテゴリが抽出された。

考察：看護文献におけるwell-beingの概念の特性は, 多岐にわたる意味を含む多面性があり, また, 今後も社会情勢に影響を受け変遷し続けていくことである。したがって, 人間を対象とする看護においては, 変遷し続けるwell-beingの多面性を常に考慮した上で, 対象の持つ価値観や信念に寄り添いながら対象のwell-beingを目指すことが必要である。

キーワード：ウェルビーイング, 健康, 概念分析, 看護

Abstract

Purpose : To analyze the concept of “well-being” in nursing and clarify its characteristics.

Method : The databases used to collect keywords were CINHAL and the website of the medical magazine. They were collected during the period from 2011 to 2019. Nursing literature in which the keywords “well-being” and “nurse” are described in the title and abstract were derived. As a result, a total of 48 cases were examined based on the concept analysis method of Rodgers et al. (2000).

Result : Six categories were derived from the previous requirements, which were individual requirements and external requirements for the environment. There are seven categories of attributes: [pleasant feelings] [self-accepting] [self-fulfilling] [self-transcending] [healthy] [satisfied] and [inclusion]. As a result, five categories were derived.

Discussion : As a characteristic of the concept of well-being in the nursing literature, there is no definition of well-being specific for nursing, and the concept of well-being changed according to social conditions and people’s values and had many aspects. In nursing for human subjects, it is necessary to aim for well-being of the subject while closely considering the values and beliefs of the subject, always taking into account the ever-changing aspects of well-being.

Keywords : well-being, health, concept analysis, nursing

1 武蔵野大学大学院 看護学研究科 博士後期課程 Musashino University Graduate School of Nursing, Doctoral Program in Nursing

2 武蔵野大学大学院 看護学研究科 Musashino University Graduate School of Nursing

I 緒言

看護師には、健康を増進し、疾病を予防し、健康を回復し、苦痛を緩和するという基本的な責任がある (ICN, 2012 日本看護協会誌, 2013)。つまり看護は人々の健康に深くかかわる職業である。

健康の定義に関しては、1948年に世界保健機関 (WHO) が出した憲章における定義が有名である。WHOの定義では、「健康とは、身体面、精神面、社会面において well-being な状態を指し、単に病気・病弱でない事ではない」とされている。この定義以降、健康は well-being と同義として用いられるようになった。well-being もまた看護にとって重要な概念となった。

一方で、健康や well-being の概念は時代とともに変遷をしている。WHOの定義以前は、健康は疾患と対峙する概念であったが、WHOの定義により、健康は身体的、精神的側面のみならず、社会的側面も強調され、well-being つまり「良好な状態」であるとされた。さらに医療技術の急速な進歩や社会構造の変化により、病気や障害を持ちながらも、自己実現をしていくことが well-being という考え方へと変遷してきている (榎本, 2000)。

本研究では、看護にとって重要な概念である well-being が、看護学の分野でどのように用いられているのかを看護文献における well-being の概念を分析し、その特性を明らかにすることで、今後の基礎資料とするものである。

II 方法

時代や社会情勢の変化に影響を受けている well-being の概念の特性を明らかにするために、時間や状況による概念の変化に着目した Rodgers (2000) の概念分析アプローチを用いた。

文献は、CINHAL、医中誌 web のデータベースを使用し、収録誌発行年は 2011～2019 年、キーワードを「well-being」「nurse」とし、検索した。検索の結果、2638 件の文献が抽出された。抽出された文献の中から、タイトルとアブストラクトに well-being が記載されており、全文が入手可能な文献を抽出した。その結果、英語文献 44 件、日本語文献 4 件の 48 件を分析対象の文献とした。

分析は、Rodgers (2000) の概念分析方法を基に行い、文献ごとに well-being の概念に先行して生じる先行要件、well-being の言葉の本質と概念にあたる属性、概念の結果として発生する帰結について文脈から捉えた記述を抽出しカテゴリ化して検討した。

III 結果

看護文献における well-being の概念の分析の結果、well-being の概念には、6つの先行要件、7つの属性、5つの帰結が抽出された (図1)。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを《 》で示す。

1. 先行要件

well-being の先行要件として、6つのカテゴリが抽出された。個人の要件は、【自分をコントロールできる】【肯定的思考がある】【帰属する集団に一体感を持つ】【生活を維持する体力がある】が抽出された。また、個人を取り巻く環境としての外部の要件は【愛情や信頼に基づいた人間関係がある】【利用しやすい社会システムがある】が抽出された。

1) 個人の要件

【自分をコントロールできる】とは、自分の思考や感情、生活をコントロールできる能力を持っていることである。サブカテゴリは4つ抽出された。

1つ目には《日常生活のセルフケアができる》ことである。睡眠、食事などの日常生活が自分でできることを意味している (Ashker, Penprase, & Salman, 2012; Brunborg & Ytrehus, 2014; Ling et al., 2018; Karimi, Leggat, Donohue, Farrell, & Couper, 2014; McKellar, Steen, & Lorensuhewa, 2017; Pollock, 2012; Spacek, Dunk, & Upton, 2018)。

2つ目は、《自己効力感がある》ことである。自分の能力を信じ、ある状況において必要な行動を自分が行うことができるという自信である。自分が物事をコントロールできるという感覚も含まれていた (Karimi et al., 2014; Koi-vu, Pirjo, Saarinen, & Kristiina Hyrkas, 2012a, 2012b; 小島・加藤, 2017; McKellar et al., 2017; Priesack & Alcock, 2015; Rania et al., 2014; Ratanasiripong & Wang, 2011)。

3つ目は、《ヘルスリテラシーを持っている》である。自らの健康をコントロールするのに必要な、健康に対する情報を収集、理解、活用する能力である (Brunborg & Ytrehus, 2014; McKellar et al., 2017)。

4つ目は、《自己が健康であると認識する》ことである。健康状態を自己評価し、自分が健康であると自覚していることである (Bao, Vedina, Moodie, & Dolan, 2013; Jing Ling et al., 2018; Rania et al., 2014)。

【肯定的思考がある】とは、物事を肯定的に捉える考え方をすることである。物事のよい部分に焦点を当てて考えることや失敗をしたとしてもそこから学ぶという前向きな考え方を指している。逆に、悲観的な捉え方は、精神疾患

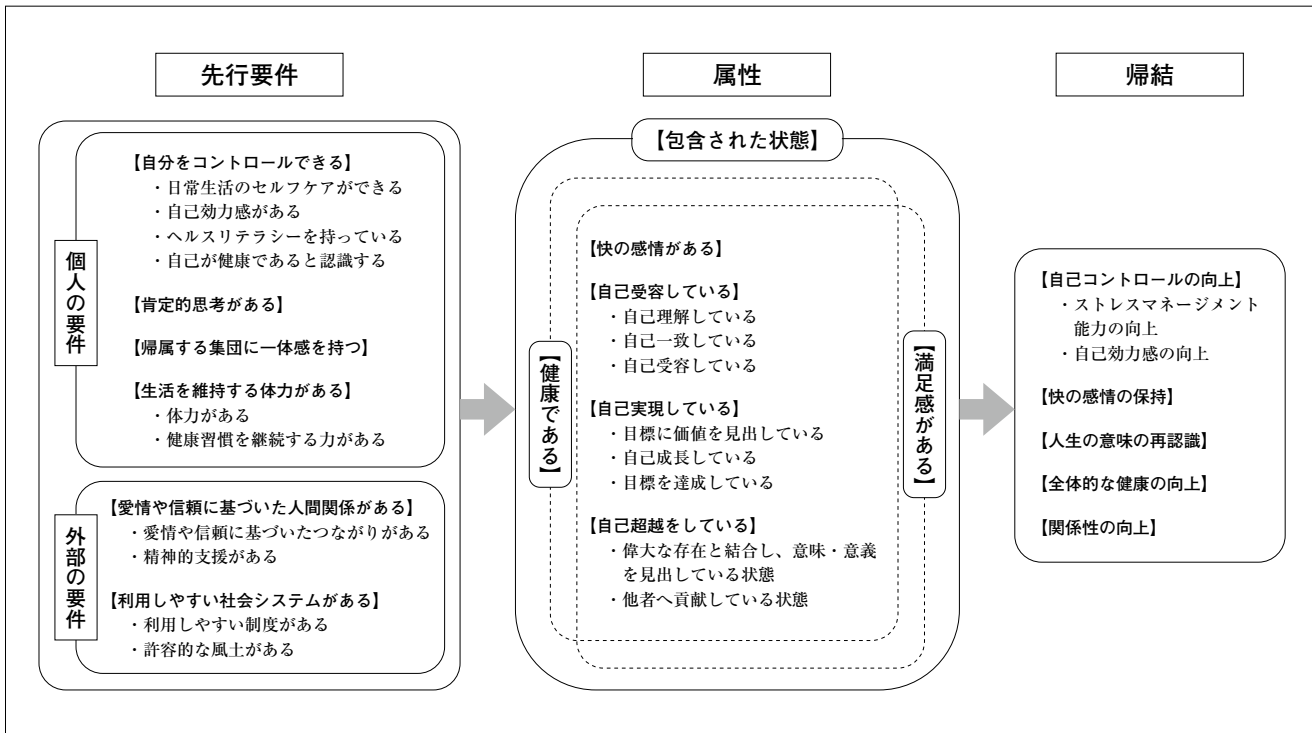


図1 看護における well-being の概念

の誘因にもなることが指摘されていた (Brunborg & Ytrehus, 2014; Byrskog, Essén, Olsson, & Klingberg-A, 2016; Griggs & Crawford, 2017; Gurková et al., 2012; Gurková, Haroková, Džuka, & Žiaková, 2014; Kim, Reed, Hayward, Kang, & Koenig, 2011; Kirkevold, Bronken, Martinsen, & Kvigne, 2012; Lehmann-Willenbrock, Lei, & Kauffeld, 2012; 岡本, 2013; Oliva et al., 2014; Utriainen, Kyngäs, & Nikkilä, 2011).

【帰属する集団に一体感を持つ】とは、家族や職場など、自分が帰属している集団の価値観や目標を受け入れ、自らの価値観や目標として内在化し、一体感を感じていることである (Bao et al., 2013)。その集団への愛情を抱いていることや情緒的つながりを実感していることも含まれている (Castro Alves, Neves, Ferreira, Coleta, & Oliveira, 2012, Koivu et al., 2012b)。

【生活を維持する体力がある】とは、日常生活において活動や労働に耐える身体力があることである。サブカテゴリは2つあり、一つは《体力がある》ことである。これは日常生活の活動や労働に耐える体力を持っていることである (Brunborg & Ytrehus, 2014)。もう一つは《健康習慣を継続する力がある》である。これは体力を維持するために健康的な生活習慣を継続する力のことであり、外出 (Pollock, 2012) や運動など体を動かす習慣があることである (Hawker, 2012; Rentala, Fong, Nattala, Chan, & Konduru, 2015)。

2) 外部の要件

【愛情や信頼に基づいた人間関係がある】とは、自分が、他者または特定の集団との情緒的つながりを持っており、それがその個人にとって精神的な支援となっていることである。サブカテゴリは2つある。

1つ目は、《愛情や信頼に基づいたつながりがある》ことである。職場の上司や同僚または家族や友人など、または家族や友人など信頼や愛情のある関係を築いていることである (Brunborg & Ytrehus, 2014; Brunetto et al., 2013; Byrskog et al., 2016; Kirkevold et al., 2012; 小島・加藤, 2017; L-Willenbrock et al., 2012; McKellar et al., 2017; 岡本, 2013; Priesack & Alcock, 2015; Rania et al., 2014; Utriainen et al., 2011)

2つ目は、《精神的支援がある》ことである。家族や友人などとの信頼や愛情のある関係が個人にとって精神的支援となっていることである (Brunetto et al., 2013; Gurková et al., 2012; Jing Ling et al., 2018; 小島・加藤, 2017; Lijuan & Rhayun, 2016; Pisanti, van der Doef, Maes, Lazzari, & Bertini, 2011; Spacek et al., 2018; Utriainen et al., 2011)

【利用しやすい社会システムがある】とは、帰属する集団に許容的な雰囲気があり、そしてその集団の制度、社会システムが個人にとって利用しやすいことである。サブカテゴリは2つある。

1つ目は個人にとって《利用しやすい制度がある》ことで

ある。それは、組織や集団が統治・運営するために定められた決まりが明確であり (Pisanti et al., 2011), 個人にとって利用しやすいことである (Ashker et al., 2012; Lijuan & Rhayun, 2016)。

2つ目には、《許容的な風土がある》ことであり、組織の中で個性が尊重され個人にある程度の裁量が認められており、それらが共通の認識としてあることである (Kirkevold et al., 2012; Pollock, 2012; Rania et al., 2014; Utriainen et al., 2011)。

2. 属性

well-beingの属性として【快の感情がある】【自己受容している】【自己実現している】【自己超越をしている】【健康である】【満足感がある】【包含された状態】の7つのカテゴリが抽出された。

【快の感情がある】とは、喜びやうれしさ、楽しみなどの肯定的な感情が存在している状態をいう。それは、刺激に対して一時的に生じる情動ではなく、幸せや安寧の感情が持続している、気分のことである (Hemberg, 2017; Kirkevold et al., 2012; 小島・加藤, 2017; Montes-Berges & Augusto-Landa, 2014; Morrissy, Boman, & Mergler, 2013; Oliva et al., 2014; Utriainen et al., 2011)。

【自己受容している】とは、自分を客観的に理解し、自分の考えと行動が一致しており、そのような自分をありのままに受容していることである。サブカテゴリは3つある。

1つ目は《自己理解している》であり、自分を客観的にも理解していることである (Jordan & Linden, 2013)。2つ目は《自己一致している》であり、自分の考えと言動が一致していることである (Bao et al., 2013; Morrissy et al., 2013)。そして、3つ目は《自己受容している》であり、自己の良い面も悪い面もあるがままたまに受け入れていることである (Ashker et al., 2012; Griggs & Crawford, 2017; Hemberg, 2017; Kirkevold et al., 2012)。

【自己実現している】とは、自分の目指す目標に向かって自己の持っている能力を最大限に発揮して実現させている状態である。サブカテゴリは、3つある。

1つ目は《目標に価値を見出している》ことである。自分が目指す目標が、自分の人生において価値がある目標であると認識していることである (Kim et al., 2011; Utriainen & Kyngäs, 2011)。2つ目は《自己成長している》ことである。目指す目標に向かって努力し、その中で自分の成長を実感していることである。さらに自分の成長を他者に認められることも含まれる (Castro Alves et al., 2012; 小島・加藤, 2017; Priesack & Alcock, 2015)。3つ目は《目標を達成している》である。これは、努力して目指して

いた目標を達成していることである (Castro Alves et al., 2012; Hawker, 2012)。

【自己超越をしている】とは、自己を超えた神のような存在を志向し、利己的な欲求を超越し自己を超えた存在や他者に奉仕、貢献をしていることである。サブカテゴリは2つある。

1つ目は《偉大な存在と結合し、意味・意義を見出している状態》であり、自分が自然や世界、宗教における神など偉大な存在とつながりがあることを確信し、そのつながりにおいて人生の意味・意義を見出している状態である。人生の窮状においても、人生の意味が偉大な存在から支えられていると感じていることも含まれていた (小島・加藤, 2017; 岡本, 2013; Utriainen & Kyngäs, 2011; Vuori & Åstedt-Kurki, 2013)。2つ目は《他者へ貢献している状態》であり、自己を超えた存在や他者とのつながりを確信したうえで、利己的な欲求を超えて他者のために貢献していることである (Hawker, 2012; Hemberg, 2017; Kirkevold et al., 2012; Priesack & Alcock, 2015)。

次に【健康である】【満足感がある】の2つの属性は、看護の文献では、well-beingの定義としても用いられており、前述の4つの属性よりも抽象度の高い概念であった。

まず、【健康である】という属性では、WHOの健康の定義を引用した看護文献で多く用いられていた。【健康である】とは、疾病の有無に関係はなく、身体的、精神的、社会的に良い状態のことである。ストレスは、健康に悪影響を及ぼすものの、これらのストレスもストレスマネジメントによって軽減されれば、健康な状態とされていた (Bradshaw, Goldberg, Schneider, & Harwood, 2013; Brunetto et al., 2012; Koivu et al., 2012a; L-Willenbrock et al., 2012; Oliva et al., 2014; Pollock, 2012; Priesack & Alcock, 2015; Rania et al., 2014)。

また、健康であることと同様、【満足感がある】ことも看護文献ではwell-beingの定義として多く用いられていた。well-beingの中でも、主観的well-beingは、人生の満足や幸福感 (Diener, 2000)と定義されている。well-beingを人生の満足度で測定する尺度も開発されている (Diener, 1984)。

看護の文献においては、【満足感がある】とは、生活が充実していることや自身の人生や生活に満足感を得ていることであった。特に仕事についての満足が探求されており、ワークライフバランスがとれていること、仕事内容やそのやりがい、職場環境、給与や昇進について満足していることがwell-beingの属性として抽出された (Castro Alves et al., 2012; Gurková et al., 2012, 2014; Hawker, 2012; Kim et al., 2011; Koivu et al., 2012b; L-Willenbrock et al., 2012; Pisanti et al., 2011; Por, Barriball, Fitzpatrick, &

Roberts, 2011; Ratanasiripong & Wang, 2011; Rentala et al., 2015; Tse, Leung, & Ho, 2012).

最後に【包含された状態】とは、幸せや安寧などの【快の感情がある】状態、ありのままの自分を【自己受容している】状態、自分の目指す目標に向かって自己の持っている能力を最大限に発揮して実現させている【自己実現していく】状態、利己的な欲求を超越し他者への感謝を持って貢献し人生の意味を見出している【自己超越をしている】状態が独立しつつも相互作用を受けながら存在していた。さらにより大きな概念である【健康である】状態、生活が満たされ人生に【満足感がある】状態に4つの属性は含まれ、この2つの属性が意識された状態にあった。また、これら6つの属性が含まれた【包含された状態】は、各属性が独立しつつも相互に作用しながら存在し、含まれていることであった。これは、すべての属性が相互作用をしながら含まれている【包含された状態】が well-being であることを示しており、複数の著者が、well-being には多面的側面があると指摘していることである。(Clausen, Høgh, Carneiro, & Borg, 2013; L-Willenbrock et al., 2012; M-Binder & Sanders, 2012; Priesack & Alcock, 2015; Rentala et al., 2015; Sjögren, Lindkvist, Sandman, Zingmark, & Edvardsson, 2013; Vuori & Å-Kurki, 2013).

3. 帰結

well-being の帰結として、【自己コントロールの向上】【快の感情の保持】【人生の意味の再認識】【全体的な健康の向上】【関係性の向上】という5つのカテゴリが抽出された。

【自己コントロールの向上】とは、自分をコントロールする能力が向上することである。サブカテゴリは2つある。

1つ目は《ストレスマネジメント能力の向上》である。ストレスを管理できる能力が向上することである。ストレスを認識し、そのストレスが自分にどんな影響があるのか、ストレスとなるストレスへの対応が可能かを判断し、効果的な対処ができるようになることである (Ashker et al., 2012; Bao et al., 2013; Brunetto et al., 2013; Jing Ling et al., 2018; Kirkevold et al., 2012; Koivu et al., 2012b; M-Binder & Sanders, 2012)。2つ目は《自己効力感の向上》である。自分をコントロールする能力が向上し、仕事や家族内での役割機能をより効果的に果たすことができるようになり、自分についての自信が高まることである (Koivu et al., 2012a; Vuori & Å-Kurki, 2013)。

【快の感情の保持】とは、喜びや安寧などの快の感情が持続することである。怒りや憎しみのような負の感情が減少することも含まれていた (Bradshaw et al., 2013; Brunetto et al., 2012; Kirkevold et al., 2012; Koivu et al.,

2012a; Morrissy et al., 2011; Por et al., 2011)。

【人生の意味の再認識】とは、所属する家族や職場の集団の中での自己の価値を自覚し、改めて人生の意味や意義を再認識することである (Brunetto et al., 2013; Hemberg, 2017; Kirkevold et al., 2012; Koivu et al., 2012b; 仲條・田中, 2015; 岡本, 2013)。

【全体的な健康の向上】とは、より健康が促進されることである。身体的な健康のみならず、精神的、社会的な健康や自己実現という側面も含まれていた (Bradshaw et al., 2013; Kirkevold et al., 2012; Koivu et al., 2012a; M-Binder & Sanders, 2012; Yin-Chih & Chia-Chin, 2016; Vuori & Å-Kurki, 2013)。

【関係性の向上】とは、他者や社会とのつながりが増え、さらにそのつながりにおいて、相互理解や信頼関係が深まることである。(Ashker et al., 2012; Brunetto et al., 2013; Kirkevold et al., 2012; Koivu et al., 2012b; 仲條・田中, 2015; 岡本, 2013; Y-Chih & C-Chin, 2016)

IV 考察

現在まで、看護文献における well-being の概念は、多岐にわたる意味を含む多面性を持っていることから、コンセンサスが得られてこなかった。また、一般的に well-being の概念は WHO の健康の概念として身体的、精神的、社会的に良い状態を示しているが、「良い状態」とはどのような状態であるのかについても同様に、社会的にコンセンサスは得られていない状況にある。

しかし、今回、看護文献における well-being の概念分析を行った結果では、6つの先行要件、7つの属性、5つの帰結が抽出された。

概念分析の結果からみると、well-being を導き出す先行要件では、【自分をコントロールできる】【肯定的思考がある】があれば、前向きな行動や積極的に他者と関わることができるため、【帰属する集団に一体感を持つ】ことができる。また、生活を営むためには必要な【生活を維持する体力がある】を持つことも【自分をコントロールできる】【肯定的思考がある】によって可能であり、また相互に作用しあう関係が必要であった。環境である外部の要件では【愛情や信頼に基づいた人間関係がある】【利用しやすい社会システムがある】ことは、個人は周囲に支えられ、尊重される環境の必要性があった。これらの先行要件があって、well-being の属性が導き出され、【快の感情がある】【自己受容している】【自己実現していく】【自己超越をしている】という各属性が独立しつつも相互作用しながら、大きな概念である【健康である】【満足感がある】という状態を意識された状態にあり、さらに、これらのすべてが包

みこまれた【包含された状態】であった。この【包含された状態】という多面性を持った状態そのものが well-being の概念であると考えられる。

つまり、このような多面性を持った看護における well-being の概念は、他者や社会とのつながりを実感する中で、あるがままの自分自身を受け入れ、快の感情に満たされ人生に満足しており、自分が健康であると認識していることであり、さらに人生に満足することで自己の欲求を超え、他者の幸福にも貢献できるということであると考える。

この結果は、現在の well-being を取り巻く社会情勢を反映していると考えられる。1990年以降、生活や価値観が多様化し、グローバル化が進む社会の中で、何が幸福かを追求するようになってきた。また、well-being を探求する学問としてのポジティブ心理学 (Seligman, 2000) の興隆や幸福を科学的に評価するために主観的 well-being の尺度 (Diener, 1984; 島井, 大竹, 宇津木, 池見, & Lyubomirsky, 2004) が開発された。well-being は、これらの動きの中で、たとえ障害や疾患を抱えていても自己実現をし、人生に満足している状態である (榎本, 2000) と考えられるようになった。

しかし一方で、いまだに最低限の健康さえも保証できない地域もある。国際連合は、2015年に国際社会の共通目標として「持続可能な開発目標」を掲げた。その中には、飢餓や貧困問題が挙げられており、またすべての人々に健康と福祉をとという目標も含まれている。

well-being や健康の概念は、これからも社会情勢や人々の価値観によって変遷していくものと考えられる。したがって、人間を対象とする看護においては、変遷し続ける well-being の多面性を常に考慮した上で、対象の持つ価値観や信念に寄り添いながら対象の well-being を目指すことが必要であると考えられる。

V 結論

看護文献における well-being の概念の特性は、多岐にわたる意味を含むことからコンセンサスが得られてこなかったことであった。

このような多面性を持った看護における well-being の概念は、他者や社会とのつながりを実感する中で、あるがままの自分自身を受け入れ、快の感情に満たされ人生に満足しており、自分が健康であると認識していることであり、さらに人生に満足することで自己の欲求を超え、他者の幸福にも貢献できるということであると考える。

しかし、well-being の概念は社会情勢に影響を受け変遷し続けていくことであった。

したがって、人間を対象とする看護においては、変遷し続ける well-being の多面性を常に考慮した上で、対象の持つ価値観や信念に寄り添いながら対象の well-being を目指すことが必要である。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

引用文献

- Ashker, V. E., Penprase, B., & Salman, A. (2012). Work-Related Emotional Stressors and Coping Strategies that Affect the Well-being Of Nurses Working in Hemodialysis Units. *Nephrology Nursing Journal*, *39* (3), 231-237 237p.
- Bao, Y., Vedina, R., Moodie, S., & Dolan, S. (2013). The relationship between value incongruence and individual and organizational well-being outcomes: an exploratory study among Catalan nurses. *Journal of Advanced Nursing*, *69* (3), 631-641 611p. doi:10.1111/j.1365-2648.2012.06045.x
- Bradshaw, L. E., Goldberg, S. E., Schneider, J. M., & Harwood, R. H. (2013). Carers for older people with co-morbid cognitive impairment in general hospital: characteristics and psychological well-being. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, *28* (7), 681-690 610p. doi:10.1002/gps.3871
- Brunborg, B., & Ytrehus, S. (2014). Sense of well-being 10 years after stroke. *Journal of Clinical Nursing*, *23* (7/8), 1055-1063 1059p. doi:10.1111/jocn.12324
- Brunetto, Y., Farr-Wharton, R., & Shacklock, K. (2012). Communication, training, well-being, and commitment across nurse generations. *Nursing Outlook*, *60* (1), 7-15 19p. doi:10.1016/j.outlook.2011.04.004
- Brunetto, Y., Xerri, M., Shriberg, A., Farr-Wharton, R., Shacklock, K., Newman, S., & Dienger, J. (2013). The impact of workplace relationships on engagement, well-being, commitment and turnover for nurses in Australia and the USA. *Journal of Advanced Nursing*, *69* (12), 2786-2799 2714p. doi:10.1111/jan.12165
- Byrskog, U., Essén, B., Olsson, P., & Klingberg-Allvin, M. (2016). 'Moving on' Violence, wellbeing and questions about violence in antenatal care encounters. A qualitative study with Somali-born refugees in Sweden. *Midwifery*, *40*, 10-17. doi:10.1016/j.midw.2016.05.009
- Castro Alves, P., Faria Neves, V., Ferreira Dela Coleta, M., & de Fátima Oliveira, A. (2012). Evaluation of well-being at work among nursing professionals at a University Hospital. *Revista Latino-Americana de Enfermagem (RLAE)*, *20* (4), 701-709 709p. doi:10.1590/S0104-11692012000400010
- Clausen, T., Hogh, A., Carneiro, I. G., & Borg, V. (2013). Does psychological well-being mediate the association between experiences of acts of offensive behaviour and turnover among care workers? A longitudinal analysis. *Journal of Advanced Nursing*, *69* (6), 1301-1313 1313p. doi:10.1111/j.1365-2648.2012.06121.x
- Diener, E. (1984). Subjective well-being. *Psychol. Bull.*, *95*, 542-575. doi:10.1037/0033-2909.95.3.542

- Diener, E. (2000). Subjective well-being : The science of happiness and a proposal for a national index. *American Psychologist*, 55, 34-43. doi:10.1037/0003-066X.55.1.34
- Griggs, S., & Crawford, S. L. (2017). Hope, Core Self-Evaluations, Emotional Well-Being, Health-Risk Behaviors, and Academic Performance in University Freshmen. *Journal of Psychosocial Nursing & Mental Health Services*, 55 (9), 33-42. doi:10.3928/02793695-20170818-11
- Gurková, E., Haroková, S., Džuka, J., & Žiaková, K. (2014). Job satisfaction and subjective well-being among Czech nurses. *International Journal of Nursing Practice*, 20 (2), 194-203 110p. doi:10.1111/ijn.12133
- Gurková, E., Čáp, J., Žiaková, K., & Ďurišková, M. (2012). Job satisfaction and emotional subjective well-being among Slovak nurses. *International Nursing Review*, 59 (1), 94-100 107p. doi:10.1111/j.1466-7657.2011.00922.x
- Hawker, C. L. (2012). Physical activity and mental well-being in student nurses. *Nurse Education Today*, 32 (3), 325-331 327p. doi:10.1016/j.nedt.2011.07.013
- Hemberg, J. (2017). Experiencing Deeper Dimensions of Gratitude, Well-being and Meaning in Life after Suffering. *International Journal of Caring Sciences*, 10 (1), 10-16.
- ICN (2012). THE ICN CODE OF ETHICS FOR NURSES / 公益社団法人日本看護協会訳 (2013) 看護師の倫理綱領 <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/icncodejapanese.pdf>
- Jing Ling, T. A. Y., Xia, X. S., Tan, C. L. R., Yuanrong, Q. U., Loh, C.-L. J., Ying, L. A. U., & Piyanee, K.-Y. (2018). Evaluating predicting factors of psychological well-being among university and polytechnic students. *Singapore Nursing Journal*, 45 (1), 2-12.
- Jordan, J., & Linden, M. A. (2013). 'It's like a problem that doesn't exist': The emotional well-being of mothers caring for a child with brain injury. *Brain Injury*, 27 (9), 1063-1072 1010p. doi:10.3109/02699052.2013.794962
- Karimi, L., Leggat, S. G., Donohue, L., Farrell, G., & Couper, G. E. (2014). Emotional rescue: the role of emotional intelligence and emotional labour on well-being and job-stress among community nurses. *Journal of Advanced Nursing*, 70 (1), 176-186 111p. doi:10.1111/jan.12185
- Kim, S.-S., Reed, P. G., Hayward, R. D., Kang, Y., & Koenig, H. G. (2011). Spirituality and psychological well-being: testing a theory of family interdependence among family caregivers and their elders. *Research in Nursing & Health*, 34 (2), 103-115 113p. doi:10.1002/nur.20425
- Kirkevold, M., Bronken, B. A., Martinsen, R., & Kvigne, K. (2012). Promoting psychosocial well-being following a stroke: Developing a theoretically and empirically sound complex intervention. *International Journal of Nursing Studies*, 49 (4), 386-397 312p. doi:10.1016/j.ijnurstu.2011.10.006
- Koivu, A., Saarinen, P. I., & Hyrkas, K. (2012a). Does clinical supervision promote medical-surgical nurses' well-being at work? A quasi-experimental 4-year follow-up study. *Journal of Nursing Management*, 20 (3), 401-413 413p. doi:10.1111/j.1365-2834.2012.01388.x
- Koivu, A., Saarinen, P. I., & Hyrkas, K. (2012b). Who benefits from clinical supervision and how? The association between clinical supervision and the work-related well-being of female hospital nurses. *Journal of Clinical Nursing*, 21 (17/18), 2567-2578 2512p. doi:10.1111/j.1365-2702.2011.04041.x
- 小島亜美, 加藤佳子. (2017). 健康診査受診者の生きがいと首尾一貫感 (Sense of coherence: SOC) およびソーシャル・サポートとの関係. *日本看護科学会誌*, 37, 18-25. doi:10.5630/jans.37.18
- Lehmann-Willenbrock, N., Lei, Z., & Kauffeld, S. (2012). Appreciating age diversity and German nurse well-being and commitment: Co-worker trust as the mediator. *Nursing & Health Sciences*, 14 (2), 213-220 218p. doi:10.1111/j.1442-2018.2012.00681.x
- Lijuan, X., & Rhayun, S. (2016). Influence of work-family-school role conflicts and social support on psychological wellbeing among registered nurses pursuing advanced degree. *Applied Nursing Research*, 31, 6-12. doi:10.1016/j.apnr.2015.12.005
- 榎本妙子 (2000). 健康概念に関する一考察 立命館産業社会論集, 36 (1), 123-139, http://www.ritsumei.ac.jp/ss/sansharonshu/assets/file/2000/36-1_masumoto.pdf
- McKellar, L., Steen, M., & Lorensuhewa, N. (2017). Capture my mood: a feasibility study to develop a visual scale for women to self-monitor their mental wellbeing following birth. *Evidence Based Midwifery*, 15 (2), 54-59.
- Mintz-Binder, R. D., & Sanders, D. L. (2012). Workload demand: a significant factor in the overall well-being of directors of associate degree nursing programs. *Teaching & Learning in Nursing* 7 (1), 10-16 17p. doi:10.1016/j.teln.2011.07.001
- Montes-Berges, B., & Augusto-Landa, J.-M. (2014). EMOTIONAL INTELLIGENCE AND AFFECTIVE INTENSITY AS LIFE SATISFACTION AND PSYCHOLOGICAL WELL-BEING PREDICTORS ON NURSING PROFESSIONALS. *Journal of Professional Nursing*, 30 (1), 80-88 89p. doi:10.1016/j.profnurs.2012.12.012
- Morrissy, L., Boman, P., & Mergler, A. (2013). Nursing a Case of the Blues: An Examination of the Role of Depression in Predicting Job-Related Affective Well-being in Nurses. *Issues in Mental Health Nursing*, 34 (3), 158-168 111p. doi:10.3109/01612840.2012.740767
- 仲條直美, 田中温子. (2015). ウェルビーイング評価尺度を通して考える看護アプローチ 心理教育プログラム援助技術を振り返って. *日本精神科看護学術集会誌*, 58 (1), 252-253.
- 岡本宣雄 (2013). 高齢者の Spiritual well-being の概念の位置づけとその特徴. *川崎医療福祉学会誌*, 23 (1), 37-48.
- Oliva, D., Sandgren, A., Nilsson, M., & Lewin, F. (2014). Variations in Self-Reported Nausea, Vomiting, and Well-being During the First 10 Days Postchemotherapy in Women With Breast Cancer. *Clinical Journal of Oncology Nursing*, 18 (2), E32-36 31p. doi:10.1188/14.CJON.E32-E36
- Pisanti, R., van der Doef, M., Maes, S., Lazzari, D., & Bertini, M. (2011). Job characteristics, organizational conditions, and distress/well-being among Italian and Dutch nurses: A cross-national comparison. *International Journal of Nursing Studies*, 48(7), 829-837 829p. doi:10.1016/j.ijnurstu.2010.12.006
- Pollock, A. (2012). Going outside is essential for health and well-being. *Journal of Dementia Care*, 20 (3), 34-37 34p.
- Por, J., Barriball, L., Fitzpatrick, J., & Roberts, J. (2011). Emotional intelligence: Its relationship to stress, coping, well-

- being and professional performance in nursing students. *Nurse Education Today*, 31 (8), 855-860 856p. doi:10.1016/j.nedt.2010.12.023
- Priesack, A., & Alcock, J. (2015). Well-being and self-efficacy in a sample of undergraduate nurse students: A small survey study. *Nurse Education Today*, 35 (5), e16-20 11p. doi:10.1016/j.nedt.2015.01.022
- Rania, N., Siri, A., Bagnasco, A., Aleo, G., & Sasso, L. (2014). Academic climate, well-being and academic performance in a university degree course. *Journal of Nursing Management*, 22 (6), 751-760 710p. doi:10.1111/j.1365-2834.2012.01471.x
- Ratanasiripong, P., & Wang, C.-C. D. C. (2011). Psychological well-being of Thai nursing students. *Nurse Education Today*, 31 (4), 412-416 415p. doi:10.1016/j.nedt.2010.08.002
- Rentala, S., Fong, T. C. T., Nattala, P., Chan, C. L. W., & Konduru, R. (2015). Effectiveness of body-mind-spirit intervention on well-being, functional impairment and quality of life among depressive patients - a randomized controlled trial. *Journal of Advanced Nursing*, 71 (9), 2153-2163 2111p. doi:10.1111/jan.12677
- Seligman, M. E. P., & Mihaly, C. (2000). Positive Psychology: An Introduction. *American Psychologist*, p5-p14.
- 島井哲志, 大竹恵子, 宇津木成介, 池見陽, & Lyubomirsky, S. (2004). 日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale (10), 845. Retrieved from <http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=edsics&AN=edsics.2005064992<=ja&site=eds-live>
- Sjögren, K., Lindkvist, M., Sandman, P.-O., Zingmark, K., & Edvardsson, D. (2013). Person-centredness and its association with resident well-being in dementia care units. *Journal of Advanced Nursing*, 69 (10), 2196-2206 2111p. doi:10.1111/jan.12085
- Spacek, A., Dunk, A. M., & Upton, D. (2018). Exploring the impact of incontinence-associated dermatitis on wellbeing. *Wound Practice & Research*, 26 (4), 188-196.
- Tse, M., Leung, R., & Ho, S. (2012). Pain and psychological well-being of older persons living in nursing homes: an exploratory study in planning patient-centred intervention. *Journal of Advanced Nursing*, 68 (2), 312-321 310p. doi:10.1111/j.1365-2648.2011.05738.x
- United Nations General Assembly (2015). Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development / 外務省 (2015). 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>
- Utriainen, K., & Kyngäs, H. (2011). Ageing hospital nurses' well-being at work: psychometric testing of the Dignity and Respect in Ageing Nurses' Work Scale. *Scandinavian Journal of Caring Sciences*, 25 (3), 617-624 618p. doi:10.1111/j.1471-6712.2011.00873.x
- Utriainen, K., Kyngäs, H., & Nikkilä, J. (2011). A theoretical model of ageing hospital nurses' well-being at work. *Journal of Nursing Management*, 19 (8), 1037-1046 1010p. doi:10.1111/j.1365-2834.2011.01263.x
- Yin-Chih, W., & Chia-Chin, L. (2016). Spiritual Well-being May Reduce the Negative Impacts of Cancer Symptoms on the Quality of Life and the Desire for Hastened Death in Terminally Ill Cancer Patients. *Cancer Nursing*, 39 (4), E43-E50. doi:10.1097/NCC.0000000000000298
- Vuori, A., & Åstedt-Kurki, P. (2013). Experiences of health and well-being among Finnish low-income fathers. *Nursing Inquiry*, 20 (2), 165-175 111p. doi:10.1111/j.1440-1800.2011.00590.x
- WHO (1948). 「CONSTITUTION OF THE WORLD HEALTH ORGANIZATION」/ 世界保健機関憲章 外務省訳 (2018). <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000026609.pdf>